

45大会ぶりの優勝

開場70周年に花添える

《福岡カンツリー倶楽部》

トータル22オーバー 310

キャプテン・山内辰崇 選手・津田敏茂、
阿部忠司、空閑豊、庄嶋毅、大塚正常



前列は山内キャプテン(左から3人目)と選手たち。後列は福岡CCの関係者

福岡の名門が再び立ち上がった。第5回大会(1975年)以来、実に45回大会ぶり3度目の頂点。「信じられない。朝から応援に来てくれて、周りの人が盛り上げてくれた。亡

くなった先輩たちも天国で聞いて欲しい。明日、死んでもいい。(福岡県南部の) 予選通過の時とは涙の圧力が違う」とアドバイス・ギバーも兼ねる山内辰崇キャプテンは大粒の涙をこぼした。今年、福岡県南部地区の予選を通過したのが17年ぶり。その勢いを維持しての優勝である。47年前の2度目の優勝時も会場は同じ芥屋GC(当時は九州志摩CC)というのも因縁めいている。

この日の天気予報は良くなかった。その通り、午後からは雨が落ちてきた。ただ、福岡CCの選手たちは後半のラウンドで粘りを発揮したのだ。出場5人中、ベスト4人のスコア合計で争われるが、その4人がいずれも前半より後半にスコアを伸ばした。アウトスタートの津田敏茂が40・35、阿部忠司が39・38、庄嶋毅が43・37、インスタートの空閑豊が38・40と4人合計で14打も縮めた。この頑張りがあったからこそその栄冠である。ポイントゲッターとなった津田は「まさか優勝とは。無欲の勝利です。決勝大会は初めての経験ですが、いい記念になりました」と目を細めた。

福岡CCは第二次世界大戦後、福岡県内で最初にオープン(1952年11月3日)した名門コース。今年は会場70周年の節目にあたる。「九州チャンピオンですからね。すごいことをやってくれました。会員自らが(開場70周年に)花を添えてくれました」と樋口秀樹支配人も声を上ずらせた。

《ベストグロス賞》

1 オーバー 73

25歳の新高英明(大村湾CC)が初の受賞



アウトは2バーディー、4ボギーの38、後半のインは2バーディー、1ボギーの35の73。2位に1打差をつけてのベストグロス賞だ。「雨は嫌いなんです。後半は気がはやらないように、ゆっくりとリズムを落として回ったのが良かったと思います」。いつものルーティンよりほんの少し時間をかけ、余裕を持っての動きで雨に対処した。今年10月、

ホームコースの大村湾CCでの九州ミッドアマではプレーオフで敗れて2位タイ。日本ミッドアマでは予選落ち。それでも「優勝した豊島さんと2日間、一緒に回ったんですが、方向性が勉強になったし、精度の足りなさを痛感しました」と得るものも大きかった。今年1年を振り返り、「九州アマでは13位になったし、今までで一番いい年でした」と笑顔を見せた。

《芥屋GC》



